



石巻専修大学 学長
坂田 隆

平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災は東日本の太平洋沿岸を中心に大きな被害をもたらしました。石巻専修大学が位置する石巻市は、被災者数、倒壊・流失家屋数など市・町としてもっとも大きな被害をうけました。私たちの大学でも大切な学生6名と入学予定者1名が亡くなりました。また、学生・教職員の三分の一以上が大きな被害をうけました。いっぽうで、大学の校舎や敷地の被害はきわめて軽微でしたから、さまざまな活動をいたしました。

東日本大震災のような大規模な災害の最前線に位置して、災害に巻き込まれながら活動している大学は多くありません。私たちは発災直後の平成23年3月30日の学部長会で、被災地の最前線の大学にしかできない活動を決めました。5月には「復興共生プロジェクト」という名前もつきました。復興共生プロジェクトは文部科学省の「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」に採択され、平成23年度から5年間の助成をいただけることになりました。

復興共生プロジェクトの中には我々の体験を記録して、社会に提供することも含まれています。昨年3月には東日本大震災石巻専修大学報告書を発行いたしました。ハードコピーは全て出払い、現在では本学ホームページからのダウンロードのみとなっております。

このたび、第1号では収録しきれなかった部分と、第1号発行以降の本学の活動を中心にして第2号を発行いたすこととなりました。第1号と同様に、資料としての側面を重視いたしましたので、大学として、あるいは学校法人としての考えと必ずしも一致しない部分もありますが、あえて著者の書いた内容をそのまま掲載しております。大学や学校法人のことを教職員がどのように感じていたのかを記録することも重要であると考えたからです。

東日本大震災の犠牲者の皆様のご冥福と被害者の方々に平穏な暮らしが一日も早く戻ることをお祈りいたしますとともに、この資料集が今後の復興や防災に寄与することを願って皆様にお届けいたします。